身近な他者との会話と高校生の進路成熟との関係
―教育・職業・人生３側面についての検討―

専攻　　人間発達教育
コース　教育コミュニケーション
学籍番号　　M16010H
氏名　　森本　大吾

問題の所在と本研究の目的

一度きりの人生において、自分自身の進路とじっくり向き合い、人生を構築していくための準備をすることや、そうした課題に取り組む姿勢を身につけていくこと、つまり「進路成熟」を促進していくことは、高校生にとって重要な課題である。

坂柳(1993)は、進路成熟の促進を目指すべき進路指導においては、「進路」という言葉を曖昧なものとせず、教育進路・職業進路・人生進路の３つの進路系列(側面)を視野に入れ、明確化しておくことが必要だとした。進学先の選択や決定に関する教育進路だけでなく、就職や人生、生き方に関する職業進路・人生進路をともに成熟させていくことが現在の進路指導・キャリア教育に求められている。

そして、進路指導・キャリア教育を実践する学校だけでなく、生徒一人ひとりの進路発達や進路成熟をしっかり支援していくための大きな支援者となるのは、高校生の周りにいる他者であろう。

本研究では、その中でも身近な他者との会話やコミュニケーションに注目し、身近な他者、特に父親、母親、友人、先生との普段の会話や進路に関する話の会話量と、高校生の進路成熟の関係、具体的には、会話をする相手や、会話の内容によって、高校生の教育進路・職業進路・人生進路 3 側面の進路成熟度はどのような影響を受け、どのように異なるのかについて、またその男女差について明らかにする。

調査

１．調査協力者

兵庫県内の中堅の公立高校普通科の 3 年生 276 名（男子 143 名、女子 133 名）。本格的な個別の進路支援は始まっていないが、調査校において 2 年余りかけて進路指導・キャリア教育が実施されてきた。

２. 調査日

2017 年 7 月 19 日。

調査内容

（1）フェイスシート

学級、出席番号、性別、年齢の記入を求めた。

（2）進路成熟態度尺度

「進路成熟態度尺度」は坂柳(1992)によって作成された尺度であり、「教育進路成熟」「職業進路成熟」「人生進路成熟」の三つの下位尺度から成る。関心性・自律性・計画性という 3 つの構成要素からそれぞれ 3 項目の 9 項目ずつを抽出した計 27 項目に対し 5 件法で回答を求めた。

（3）高校卒業後の進路の決定度・考慮度・希望度に関する項目

高校卒業後の志望の進路を①決めている度合い（決定度）、②考えている度合い（考慮度）、③希望している度合い（希望度）を尋ねる 3 項目。

（4）卒業後の進路希望先に関する項目

（5）進路を考える上で影響を受けた人物とその人物からの影響の強さに関する項目

進路を考える上でそれぞれどの程度影響を受けている（受けた）かについて、5 件法で回答を求めた。

（6）身近な他者との話題ごとの会話量に関する項目

どのような話をどの程度しているかについて、相手ごと、話題ごとに 4 件法で回答を求めた。

結果と考察

１．志望進路の決定度・考慮度・希望度と３側面の進路成熟度

男子は進路決定度、進路考慮度、進路希望度がそれぞれ高く、「職業進路成熟」が他と比べて低いものの全般的には進路成熟が促進されていると言える。ただし、進学や入試への取り組みが、就職や人生への取り組みと結びついていないことがうかがえる。それに対して、女子は進路の決定度、考慮度、希望度がそれぞれ高いことに加えて、進学・就職・人生への取り組みの姿勢につながりがあることが示唆された。

２．身近な他者との会話の特徴および性差

会話の内容に関わらず男女ともに友だちや母親との会話量が父親や先生との会話量よりも多く、どの相手どの会話内容においても男子よりも女子の方が会話量の多いことが分かった。

３．進路成熟と身近な他者との会話の関連

身近な他者と会話をしていることと進路成熟、とりわけ人生進路成熟とは高い正の相関があることが示唆された。また、同性の親子間での会話と進路成熟との関連が高く、女子は父親との会話と進路成熟との関連についても男子以上に高い、つまり特に親子の会話が進路へのレディネスを高めていることが明らかになった。

４．３側面の進路成熟度によるクラスタ分析

以下の４タイプがあることが分かった。

(1) 進路成熟低群

教育・職業・人生 3 側面の進路成熟度が相対的にではあるが低く、やや注意が必要な群。進路考慮度がどの群と比べても有意に低く、父親、母親、友だち、先生という全ての身近な他者と会話の量が少ない点が特に目立っている。

(2) 進路成熟高群

3 側面の進路成熟度がそろって高い群。父親、母親、友だち、先生という全ての相手とよくコミュニケーションがとれている点が顕著である。

(3) 教育進路優勢群

平均的ではあるが「職業進路」「人生進路」よりも「教育進路」が優勢な群。最も多くの生徒がこのタイプである。進路考慮度が進路成熟低群と比べると高く、進路成熟高群と比べると低い。父親や母親、友だちとの会話量も進路成熟高群と比べて少なかった。

(4) 職業進路優勢群

「教育進路」が極めて低く、「職業進路」および「人生進路」が高い群。ただし、「教育進路」が低いのは、この群を構成する 11 名のうちの実に 10 名が就職希望者であるためであった。

以上のことより、身近な他者との会話と高校生の進路成熟との密接な関係が明らかになった。

親子で何気ない話をよくしている生徒は、進路の話もよくしていることが示唆されたことからも、親子間のコミュニケーションを図っていくこと。友だちと何気ない話はしていても進路の話はしていない高校生が多いため、友だち同士が牽制せずに気兼ねなく進路の話ができる関係性の構築や環境作りをすること。生徒に進路の話はある程度しているものの全体の会話量が少ない教員が、自己開示もしながら会話や相談の機会を大切にして、教員としてはもちろんのこと大人としても影響を与えていくこと。こうしたことの積み重ねが高校生の進路を成熟させていくための大きな力になると考える。

主任指導教員　中間玲子
指導教員　中間玲子